

平成25年度 第4回 桑名市子ども・子育て会議 議事録

日 時	平成26年1月24日（金） 午後1時30分から午後4時10分ごろ
場 所	市役所5階中会議室
出席委員	伊藤香、伊藤直和、稲垣陽子、奥田聖人、加藤隆明、柴田幸男、津田浩二、 中谷直子、野口典子（◎）、濱内洋孝、松岡典子（○）、松岡初文、水谷秀史、 水谷美保、横山悦子、渡部美紀子（敬称略、五十音順） （◎：委員長、○：副委員長）
傍聴人数	3名
会議次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>（1）桑名市の子ども・子育て支援に関する課題の検討</p> <p>① 子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果速報版の報告（資料1）</p> <p>② 子ども・子育て支援に関するヒアリング・ワークショップの実施報告③ （資料2）</p> <p>③ 各委員からいただいた意見・提案の報告（資料3）</p> <p>④ 桑名市の子ども・子育て支援に関する課題の検討【グループワーク】</p> <p>（2）教育・保育提供区域の設定について（資料4）</p> <p>3. その他</p> <p>4. 閉会</p>

1. 開会

(野口委員長)

こんにちは。次第にあるとおり、単純集計ではあるがアンケート調査結果もまとまってきた。こういう資料をベースに良い議論ができればと思う。今年初めての会議になるので、今年もよろしくお願ひします。それでは議題に移りたい。

(加藤委員)

議事に入る前に確認したい。桑名市就学前施設再編実施計画と子ども・子育て会議の位置づけを教えてほしい。先日多度地区で実施計画の説明会があった。この会議で検討する教育・保育の提供区域は、桑名市就学前施設再編実施計画とどのように整合性を図っていくのか。この会議の位置づけだけは議事の前に説明してほしい。

(事務局)

桑名市就学前施設再編実施計画は平成25年6月に策定済みだが、この会議において議論することは想定していない。ただ、認定こども園の設置については、子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果を踏まえて検討していくことを予定している。

(水谷秀史委員)

この会議の内容が桑名市就学前施設再編実施計画に反映されるのか。

(事務局)

桑名市就学前施設再編実施計画は既に策定済みなので、就学前施設の再編は計画に沿って進めていく。

(水谷秀史委員)

この会議で検討した提供区域と桑名市就学前施設再編実施計画の提供区域が異なっていたらどうするのか。

(事務局)

これは子ども・子育て支援事業計画の区域設定なので、その中で量の見込みと供給バランスを検討していただければと思う。

(水谷秀史委員)

この会議と桑名市就学前施設再編実施計画はまったく別物と理解して良いか。

(事務局)

はい。桑名市就学前施設再編実施計画は公立幼稚園の再編を内容としている。この子ども・子育て会議は、教育・保育の提供区域の設定を始め市全体の量の見込みをご検討いただく場と考えている。

(水谷秀史委員)

認定子ども園については検討しないのか。

(事務局)

ニーズ調査結果を踏まえて検討していく。

(水谷秀史委員)

この会議では認定子ども園については語らないのか。

(事務局)

公立の認定子ども園が必要かどうかは、調査結果を踏まえて検討していく。

(水谷秀史委員)

この会議と桑名市就学前施設再編実施計画の整合性はいつ図るのか。

(事務局)

もちろん整合性を図っていくことになるが、時期としては未定。

(水谷秀史委員)

桑名市就学前施設再編実施計画とこの会議を切り離して考えれば良いか。

(事務局)

そのように理解していただいて結構。

(水谷秀史委員)

この会議の結論が優先されて、桑名市就学前施設再編実施計画の内容が覆される場合もあると理解して良いか。

(事務局)

桑名市就学前施設再編実施計画は既に策定済みなので、覆されることはない。

(水谷秀史委員)

この会議で話し合っても無駄なのか。

(事務局)

桑名市就学前施設再編実施計画についてはこの会議で検討していただくことを予定していない。

(水谷秀史委員)

再度たずねたい。この会議の審議結果と桑名市就学前施設再編実施計画との整合性はいつ図るのか。

(事務局)

国の子ども・子育て会議においても認定子ども園は議論されている。市として平成25

年6月に策定した桑名市就学前施設再編実施計画は既設のものなので、これはこれで尊重していきたい。これらの棲み分けについては、次回の会議までに整理して報告したい。

(野口委員長)

桑名市就学前施設再編実施計画は、この会議では1度も取り上げたことがない。この計画について知らない委員もいると思う。この再編実施計画については、次回に説明をお願いしたいがよろしいか。

(事務局)

はい。

(野口委員長)

桑名市就学前施設再編実施計画とこの会議が、いつ、どのように整合性を図ることになるのかを全体で確認したい。これまでのやり取りを聞いていると、各委員と事務局が持っている情報に齟齬があると感じられる。

(濱内委員)

先の事務局の説明では、公立幼稚園の再編にあわせて認定こども園を設置していくのか、ニーズがあるのかについて、この会議で検討していくという主旨の説明だったと思う。そうすると、桑名市就学前施設再編実施計画はまったく関係ないものという訳ではなく、幼稚園の再編があつて、認定こども園のニーズがあるのか、預かり保育の時間、延長保育の時間をどうするかを含めて検討していくと理解してよろしいか。

(事務局)

ご指摘いただいたご意見と再編計画の経緯も含めて次回に説明したい。

(濱内委員)

再編計画の方向性とこの会議で議論していくことを整理していただけると話もスムーズにいくと思う。

(事務局)

桑名市就学前施設再編実施計画は、幼稚園の再編はどうあるべきかについて議論し、保育所との関連で認定こども園をどうするかが問題提起されている。また、濱内委員にご指摘いただいた預かり保育や延長保育等についても課題として残っている。これらを整理して、今回の子ども・子育て支援事業計画とどのようにリンクさせていくか、認定こども園については両計画に関連してくるので、国の動向等も踏まえた上でどのように扱っていくかを次回までに整理していきたい。

(野口委員長)

時間の都合もあるので議事に入る。

2. 議事

(1) 桑名市の子ども・子育て支援に関する課題の検討

①子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果速報版の報告（資料1）

※ 資料に基づき事務局説明

(野口委員長)

資料は租集計となっているが、それぞれに実数値を入れていただけるとありがたい。結果の分析を本日行うことは難しいと思うので、数字の見方等も含めて事務局に色々お願いしたいと思う。

(奥田委員)

放課後児童クラブを利用していない理由として「その他」が高くなっているが、「その他」の詳細を知りたい。

(事務局)

現在整理を進めているので、今後ご検討いただけるような形にして提供したい。

(柴田委員)

世帯構成について、「ひとり親と子どもと祖父母」のような三世代がどの程度あるのか知りたい。また、例えば保育・教育事業の利用希望時間についても、就労状況等で必要なクロス集計をお願いしたい。

(事務局)

それらも含めて必要なクロス集計をして資料を提供したい。

(稲垣委員)

前回調査結果との比較ができるのであればお願いしたい。また、できれば全国との比較もお願いしたい。加えて、資料に考察も記載してもらえると検討材料として役に立つのでお願いしたい。

(事務局)

全国との比較は難しいと思う。同じ調査をどこの自治体も実施したばかりなので。

(稲垣委員)

世帯構成等の属性について比較できないか。

(事務局)

国勢調査等の結果とであれば比較できるので、改めて資料を提示したい。また、過去

の調査結果との比較を意識して調査票をご検討いただいたと思うので、それも含めて分析していきたい。

(野口委員長)

それでは、ワークショップの実施報告に移りたい。

②子ども・子育て支援に関するヒアリング・ワークショップの実施報告③（資料2）

※ 資料に基づき事務局説明

(野口委員長)

ワークショップにご参加いただいた横山委員にご感想をお聞きしたい。

(横山委員)

発達障害は過渡期で、色々なことがわかってきて、色々な新しくしていかなければいけない時期なので、たくさんのニーズがあることは何となくわかっていたが、なるほどと思うことがたくさんあった。貴重な意見をいただいたので、何か1つでも実現できればと思った。

(濱内委員)

資料2の7頁には市に期待すること、20頁には市への要望が整理されているが、調査票とは別のニーズ調査であり、議事録としてまとめるだけで、報告という形で終わらせてしまってはもったいない。ニーズ調査の項目と照らし合わせて箇条書きでまとめ、課題検討事項の資料に入れてもらいたい。また、市として制度的にできる／できない等も示してもらえると、ワークショップの結果をより良く活用できると思う。支援センターに寄せられたご意見等も含まれているので、今後どのように支援センターで対応するのかについても何らかのアクションを返していただきたい。市民に開示するかどうかは任せるが、せめてこの会議には公表してほしい。

(野口委員長)

ヒアリングのまとめは、数字以上に取り扱いが難しい面がある。現状の施策で対応できるはずなのにできていないもの、新たに発見されたニーズなど、この中から読み取りながら整理していく、つまりこれ自体を分析の材料としてデータ化していく必要がある。この作業には技術が必要であり、時間も相当かかるので、事務局も時間がほしいと思う。

③各委員からいただいた意見・提案の報告（資料3）

※ 資料に基づき事務局説明

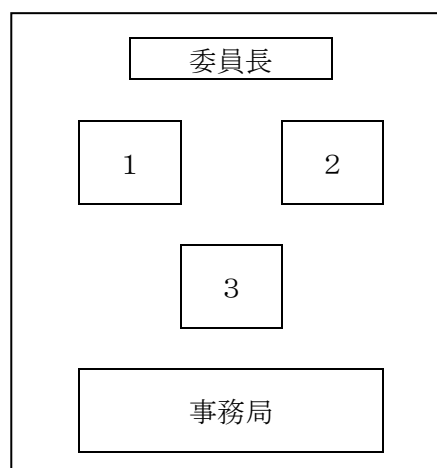
④桑名市の子ども・子育て支援に関する課題の検討【グループワーク】

※ 資料に基づき事務局説明

【グループワーク】

委員が車座になるよう席を配置変えし、各グループに分かれて検討を開始。

- 1 グループ：伊藤香、大橋了子、柴田幸男、
濱内洋孝、水谷秀史、渡部美紀子
- 2 グループ：伊藤直和、奥田聖人、津田浩二、
松岡典子、水谷美保
- 3 グループ：稲垣陽子、加藤隆明、中谷直子、
松岡初文、横山悦子



【グループ発表の要旨】

■ 1 グループ

- ・ 障害を持つ子どもの家庭について、発達障害やそれに近い子どもたちの行き場所としての療育センターの定員が一杯で、入りたくても入れない。私立幼稚園での受け入れ態勢にも限界があり、療育センターのキャパシティの拡大が課題としてあがった。
- ・ 支援センター全般について、支援センターに行った参加者が孤立しないよう親同士が交流しやすい仕組みづくり、インターネットや携帯電話を活用した若い親世代のための情報提供の充実、自己肯定感を高められるような子育て講座の充実があげられた。
- ・ 親の就労について、資料1の26頁では56.9%が2歳まで家庭で育てるのが良いと考えているという結果が出たが、裏を返せばこの56.9%が3歳までに子どもを預けたいことになる。ワークショップでも3歳から幼稚園・保育園に預けたいという意見が多かった。また、13頁の子育て支援事業を利用していない理由として、「幼稚園・保育園の在園児のため、利用したくてもできない」が43.5%でトップとなっており、この課題についても検討が必要という意見が出された。

■ 2 グループ

- ・ 学童保育について、利用していない人が利用したいと思うことが大事であって、資

格のある人を登用するなど、中身を魅力的なものにしていくことが大事。保護者費用、運営者側の負担を軽減させるサポートも必要。外国人児童に対するサポートも必要。民間、学校、自治体の連携強化の必要性。

- ・小学生児童の病児保育の充実が必要。一方で、親が休みたいと言えるような環境づくりが大事。
- ・母親が活躍できる場所をつなげていく取組み、仕組みが必要。〇歳まで家庭で子どもを育てたいという考えには個人差があるが、家庭で育てている間にも社会とのつながりは重要。
- ・ひとり親世帯のニーズをもっと引き出すことが大事。
- ・子育てに関する情報提供は、妊娠中ではなく出産後の方が効果的。
- ・育児休業3年は企業にとって負担が大きいのので、定着させるためには企業負担も軽減させるべき。
- ・幼稚園または保育園の選択を経済的理由で決めている人が4分の1。これを教育理念で選択できる仕組みづくりをしてほしい。公立・私立の格差是正が必要。

■ 3 グループ

- ・大切なことは多々あるが、予算に限りがあるので、優先順位を検討したい。
- ・発達障害の子どもの支援について、公私間の連携が薄いのもっと支援をしてほしい。
- ・親の子育て力を高めることの重要性に関する意見が多かった。
- ・母親は仕事か家庭のどちらかしか選択できていないので、両方楽しむにはどうしたら良いかという意見が出た。

(野口委員長)

資料1の調査結果をみていくと、子どもを持つことは楽しい、子育てはつらいという結果が出ているので、この矛盾をどうやって乗り越えていくかが重要になる。子どもを持っている人だからかもしれないが、子どもを持つことに対しては決して否定的ではない、しかし、子育てをするとき何故か孤立していくという矛盾がある。これをどのように施策や地域で支えながら再編成していくかになると思う。また、ワークショップのご意見からも、親としての自己肯定感を持ちにくい社会であることが伝わってくる。親が疲れる社会を作ってしまった。この辺りも踏まえて今後も検討していきたい。

(2) 教育・保育提供区域の設定について（資料4）

※ 資料に基づき事務局説明

(野口委員長)

今回の量の見込みは、子ども・子育て全体にわたる事業の見込みを市として検討していくものだが、その際に圏域を考えようというのが国の考え方とご理解いただきたい。圏域を設定することは、高齢者の場合にはそれなりに妥当性があるが、教育・保育を圏域で組み立てていくことは難しいと感じている。また、子ども・子育て支援事業計画の考え方は、東京都市部のように人口が密集し、人口自体が平均的に地区を形成している地域をモデルに想定されており、必ずしもきれいにいかないことが出てくると考えられる。とりあえずこれは国の方針なので、それに即した形で事業計画を作っていくことになる。事務局からは、事業ごとに区域設定を考えることが1つの案として提示されている。つまり、区域を前提に事業を考えるのではなく、事業にあった区域を考えようという方針とご理解いただきたい。その区域設定の種類として、市全域～小学校までの4種類が記載されている。ただし、私としては3つ目の「合併前の旧行政区」がポイントになってくると感じているが、人口分布や利用ニーズを考慮していくと、具体的な施設整備や事業展開にあたっては、旧行政区に対する一定の配慮がないと現実的なものになっていかないと思う。記載のとおり、「適正な施設配置に努めていく」の文言はとても大事だと思う。

※ 資料に基づき事務局説明 《続き》

(奥田委員)

学童保育は小学生を預けるものなのに、何故中学校区で考えなければいけないのか疑問に思う。今後議論していただきたい。

(濱内委員)

資料をみると学童保育は利用率が低いから中学校区でも良いのではないかというまとめ方になっているが、中には遠すぎて利用を諦めているような家庭もあると思う。中学校区に1つという方針で進めるのであれば、せめてそこに安全に通える仕組みを作してほしい。これは地域ごとによって変わってくると思う。特に長島は南北に長いので、中学校区に1つとなると小学校から歩いて1時間以上かかるはず。地域の特徴に合わせて臨機応変に対応してほしい。

(事務局)

学童保育に限らずだが、区域設定をしてサービスの受給バランスをみていくことになるので、実際の利用については、例えば学童保育が小学校区単位で行われている現状は変わらないと思う。あくまで需給バランスをみるための区域設定とご理解いただきたい。

(野口委員長)

受給見込みと整備計画の数字の出し方は違うということを説明しないとわからないかも知れない。というわけで、小学校区と中学校区ではどの程度違ってくるかを、1度資料として出していただいた方がわかりやすいと思うがどうか。

(事務局)

次回に両案出せるよう検討したい。

(野口委員長)

今日の確認として、区域設定の方法は4種類あり、そのうちの1つに合併前の旧行政区がある。これは生活の母体の成り立ちにも関係するので、これは尊重せざるを得ないと思う。今日事務局から提案のあった内容は、次回にどのような結果が出てくるのかご提示いただきたいと思う。また、冒頭にあった公立幼稚園再編計画とこの会議の関係についても次回ご説明いただく。加えて、アンケート調査結果とヒアリング・ワークショップの結果を分析的にご提示いただく。資料作成が大変だと思うがよろしく願いたい。

3. その他

※ 次回の日程調整等について事務局説明

(野口委員長)

本日はこれで以上としたい。ありがとうございました。

4. 閉会

(以上)